三菱商事[エネルギーデリバティブ]
多種多様企業にテーラーメードで

編集部

三菱商事は、原油、および重油、軽油、灯油など石油製品、天然ガスについて価格変動リスクを回避するデリバティブ（金融派生商品）の設計、販売を2003年10月にスタートさせています。原油価格の変動幅が増大し、その一方で石油、電力業界の自由化、規制緩和が進むなかで、企業間競争が激しくなり、エネルギー・リスク・マネジメントのニーズは多くの業界で高まっており、それに対応したものです。

エネルギーデリバティブは、外資系の投資銀行、日本の銀行も組成、販売しているので、目新しいものではありませんが、三菱商事は、「当社は、まず現物の取引ありきで、デリバティブありきではありません」と強調しています。現物の取引と一体となって、その強みを生かし、的確に対応できるとの自信と確信があるようです。

ロンドンに子会社設立

このエネルギー・リスク・マネジメントのため、2003年２月にロンドンに設立したのがペトロダイヤモンド・リスクマネジメント・リミテッド（PDRM）です。社内のジョイントベンチャーとして立ち上げました。三菱商事のエネルギー事業グループと金属事業グループが50％ずつ出資した100％子会社です。

ロンドンには世界の非鉄金属先物取引の中心、ロンドン金属取引所（LME）があり、デリバティブでも古い歴史を誇っています。金属事業グループは30年前に子会社、トライランド メタル（TRILAND METAL）を設立しました。トライランドメタル社のインフラを活用してエネルギー事業、金属両グループでエネルギーデリバティブ分野に乗り出すことになりました。それによって事務処理、総務などバックオフィスをまとめ、コストを削減できます。

ロンドンに立地した理由は、第１に、24時間取引を進めるにはロンドンが時間的カバーの面で都合がいいからです。ニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）とロンドン国際石油取引所（IPE）、そして、日本の東京工業品取引所（TOCOM）の３極を結んで、十分なリスク管理ができます。第２はロンドンには先物関係業者が数多くオフィスを開いており、発注に便利なことです。

生産、消費双方に対応

エネルギーデリバティブの対象顧客は、石油を燃料とする一般メーカー、電力会社、さらには船会社、運送会社、航空会社など、現物取引があるところすべてです。海外で石油発掘にかかわっている日本企業も対象としています。つまり、価格が上がると困るところ――消費する側と、価格が下がると困るところ――生産者側の双方のリスク回避を目指しています。石油元売りは生産・消費の両面を

持っており、三菱商事も両方の事業を手がけています。

このデリバティブの営業は主として、三菱商事のエネルギー事業グループ石油事業本部石油海外事業企画室が担当しています。2003年10月の営業開始以来、「きわめて大きな反響があり、今年1月から5月までの5カ月間に全国を飛び回り、数十社を訪ねました」（同企画室の鎌倉上（のぼる）担当マネジャー）と、ニーズの強さを実感しています。

原油価格はNYMEXの米国産標準油種WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）の7月限（＝7月決済物）は6月に1バレル40ドルを超し、史上最高値をつけました。中東情勢が不安定で、まだ波乱を繰り返す可能性があります。

国内石油製品相場は、原油高騰を背景に2004年に入って上昇が目立ってきました。指標となる京浜地区のスポット価格（業者間転売価格、製油所渡し）の中心値で見て、5月末で灯油が1リットル31.6円、軽油が32.8円、高硫黄C重油が22.6円と5月上旬に比べて6～8％上昇しています。2003年は総じて下落傾向が強かったのですが、2004年になって様相が変わっています。

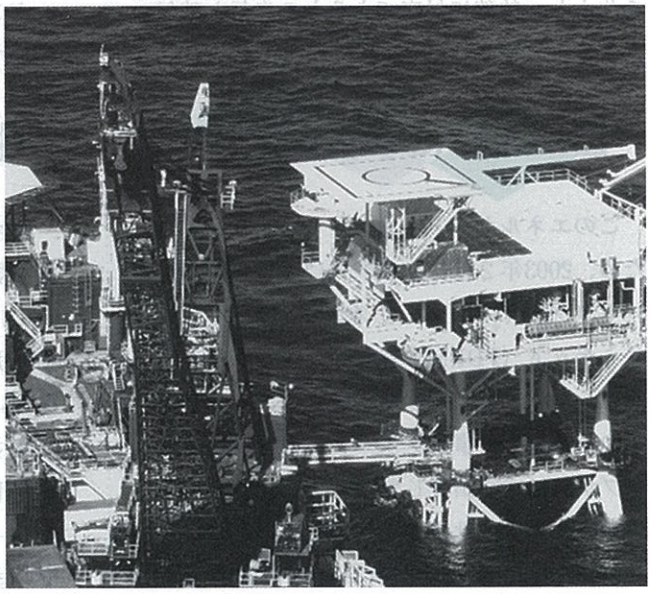
国内の需給状況は揺れています。米国へのジェット燃料輸出増のあおりで、国内の灯油在庫が急減し、トラック向け軽油と工場用燃料のC重油は内需低調ですが、石油各社、総合商社はアジア向け輸出を増やしています。

6月以降、日本に到着する原油の輸入コストと比べると5月末の石油製品相場はまだ割安とみられ、値上げの動きが幅広く出てくる可能性があります。リスク管理用デリバティブの出番は増え、舞台は広がる一方です。

勉強したことを生かす

これまでのエネルギーデリバティブの契約例に関しては、「顧客の手の内を見せるわけにはいかない」と、具体的な明示を避けていますが、個々に異なった事情がある顧客のニーズに対応して、いかなる数量、期限であろうと、リスクをなくすよう提案しています。

個々の事情をくみ取って、1社ごとに内容の違う、使い勝手の良い、いわゆる「テーラーメード」のデリバティブ組成を心がけ、三菱商事がエネルギー商品の取引を通じて身をもって勉強したことも生かそうと努めています。

エネルギーデリバティブを取り扱っている総合商社は、ロンドン子会社がやっている三井物産、本社で手がけている住友商事に次いで3番手ですが、追いつき、追い越そうという意気込みです。

三菱商事が保有する油田のプラットホーム（メキシコ湾）